

第120回 幻住庵俳句コンクール

番号	句	住所・氏名
275	旅の途の大津の雷に打たれけり	鹿児島県紫原 御崎 圭子
274	冷房や待合室の監視カメラ	
273	缶ビールあら煮ぬか漬け夕刊紙	大津市別保二 田中 文子
272	一斉にろうそく揺るる驟雨かな	
271	山ふたつ都は遠きほととぎす	大津市大重二 松田 和子
270	手花火金色銀色そして團	
269	雲一つ置かぬ青空初夏雀	大津市松本二 松田 翔
268	木洩れ陽を貴船の川へ青もみじ	
267	半木の道虚脱なり花のあと	大津市松本二 松田 翔
266	観音正寺札打つ音や万葉へ	
265	おたまじゃくしフラダンスして生まれお	大津市松本二 松田 翔
264	へ口へ口と鳥の影落つ炭屋や	
263	夏晴や船軌跡をカモメ追う	大津市松本二 松田 翔
262	青き比良響きあはうみ七月へ	
261	朝の虹今日の傘せ賣いけり	大津市松本二 松田 翔
260	風死して一枝一葉動かざり	
259	虫籠やあまたのいのち解き放つ	大津市松本二 松田 翔
258	七月に産まれし母のスニカー	
257	ふたあたりはひとりになりし逢花火	大津市松本二 松田 翔
256	手のひらにキヤラメル分けし夏五月	
255	御代りをする子のいとし日草	大津市松本二 松田 翔
254	いっばしの願して友とコンチキチン	
253	ともかくも三票入り冷茶類	大津市松本二 松田 翔
252	芭蕉見し夏の景見る幻住庵	
251	芭蕉の句慕ひて汗の幻住庵	八尾市山城町 立花 洋子

第120回 幻住庵俳句コンクール

番号	句	住所・氏名
276	近江の海芭蕉はめぐる枯野かな	鹿児島県紫原 御崎 圭子
277	雲割って青空見ゆる梅雨出口	
278	雲が雲通って梅雨の明けにけり	大津市松本二 森本 和子
279	先ず暑さつぶやき汗の顔を拭く	
280	杖の手に片道切符握りしめ	大津市松本二 森本 和子
281	空似とは淋しき増して帰り来し	
282	湯花火琵琶湖の空を囃しけり	大津市松本二 森本 和子
283	炭屋の古都を囃してコンチキチ	
284	晩年も潮をはなれず草を引く	大津市松本二 森本 和子
285	酷暑なる静かな町でありにけり	
286	炭の位置ととのえてゐる土用丑	大津市松本二 森本 和子
287		
288		大津市松本二 森本 和子
289		
290		大津市松本二 森本 和子
291		
292		大津市松本二 森本 和子
293		
294		大津市松本二 森本 和子
295		
296		大津市松本二 森本 和子
297		
298		大津市松本二 森本 和子
299		
300		大津市松本二 森本 和子